

往來之人所駕鞍轎被摩盡土人曰鞍轎盡之坂三云昔此坂上有龜一本改龜原作庶猛神往來之人半生半死其數極多因曰人命盡神于時筑紫君肥君等占之今筑紫君等之祖龜依姬爲祝祭之自爾以降行路之人不被神害是以曰筑紫神四云爲葬其死者伐此山木造作棺輿因茲山木欲盡因曰筑紫國後分兩爲前後

〔日本釋名上地名〕筑紫フクシ 筑後國風土記につくしに四義あり一義は其國形木兎に似たる故也其餘の三義は皆盡の意詞林采葉抄曰凡九州をつくしと名つぐるは此島の形木兎に似たり紫は島と云詞也よつてつくしまと云也萬葉仙覺抄の意も亦同じ篤信おもへらく九州のかたち木兎に似たれば九州をすべてつくしと名付しとはいふかし筑紫とははじめ筑前筑後一國なりし時一國にかぎりて名付し名なればはじめより九州に名づけし名にはあらず後に筑前に太宰府立し故に官府ある國をとりて九州をすべて筑紫といへる也又此島のかたち木兎に似たりと云事しかるべきとも思ひ侍らず今九州の總圖を見るに木兎に似たりとも見えず古人の説はさだめて道理あるべしされども今わが淺見よりみれば是其義を得ずしてみだりにつくり出せし詞のやうに聞え侍べるひそかにおもふにいにしへ異國より賊兵の襲來をふせがんと云なるべし○中むかし筑前筑後一國にてこれを筑紫と云後にわかれて筑前筑後となるつくちぐ音通す且つくは訓なれど筑にちぐの音あり筑前太宰府に官府有しゆへに九州をすべて筑紫と名づけし事大和に都ありし故大和を日本の總名とせしがごとし○下略

〔泰山集甲乙錄九十三〕重遠謂築石訓甚佳然恐亦傳會耳若上世異國賊兵屢侵不知有何證堂堂神國豈容異賊侵之乎中古置防人於筑紫亦備萬一不虞耳文永年中我國衰微胡元猖獗各極其至而尙賊兵無噍類此皆我神國之餘威也損軒欲實築石之訓誣言上世異賊屢侵豈不污穢我神國乎且若